



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和7年1月31日

今は、未来をつくる礎になる

校長 石田耕太郎

もうすぐ立春を迎えますが、まだまだ寒さの厳しい日が続いております。そうした中、昨年12月に4年生が花壇、1年生が植木鉢に植えたチューリップの芽が出ていることに気付きました。まだまだ、植えたチューリップの内の1割にも満たない数ですが、土の中ではやがて来る春に、大きな花を咲かす準備がなされていることを実感しました。

さて、私たちはアサガオやヒマワリなどは種子を植えますが、チューリップは球根を植えます。チューリップには、アサガオやヒマワリなどのように種子はないのでしょうか？

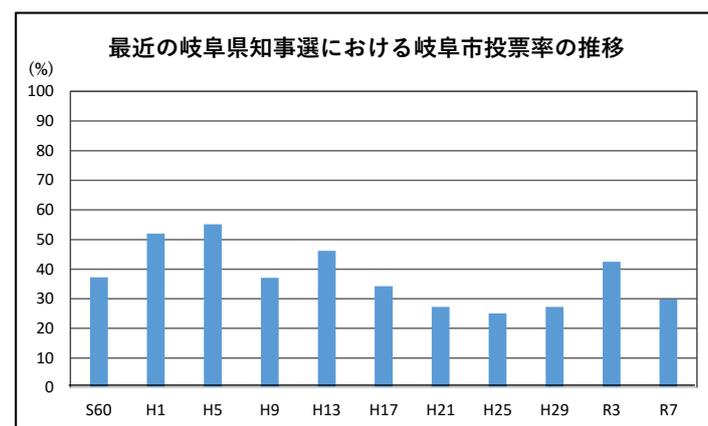
実は、チューリップにも種子があります。他の植物と同じように花を咲かせた後に種子ができます。それでは、どうしてチューリップは種子から育てないのでしょうか？それは、チューリップを種子から育てると、花が咲くまでおよそ5年もかかってしまうからです。植物にとって花を咲かすことは、次の世代を残すための大切な営みのため、多量の栄養を必要とします。チューリップは花を咲かすための栄養を、数年間かけて毎年少しずつ球根に蓄えているのです。こうして栄養を蓄えた球根を秋に植えると、翌年の春に花が咲くのです。そして、私たちはその「美しい花を見る」という恩恵を受けていたのです。

今年も「三輪地区『二十歳のつどい』」に出席させていただきました。二十歳を迎えた参加者の皆さんの晴れやかな姿を拝見し、今後彼らが創り出していく未来に大きな希望を感じました。以前のこの式は、「成人式」と呼ばれていましたが、令和4年度から民法に規定する成年年齢が満18歳へと引き下げられ、今の名称になりました。そして、成年年齢の引き下げは、高等学校在学中の年齢から選挙権を行使できるようになりました。そのため、小学校・



中学校の段階から、子ども達に主権者として必要な資質・能力を身に付けていく「主権者教育」が、これまで以上に重要となりました。本校においても教科等を中心として主権者教育に取り組んでおります。今年度6年生の児童は、6年後に一人の有権者として、「自らの願う社会の実現」を願って一票を投じます。

先日、岐阜県知事選挙が行われました。左のグラフは最近40年ほどの岐阜県知事選挙における岐阜市投票率です。私は、先に話題としたチューリップが長い時間



をかけて球根を大きくするのと同様に、今の一票は未来をつくる礎になると信じています。目の前にいる子ども達が活躍する10年先、20年先・・・に、どのような社会を受け継ぐことができるのかを、今の私たちが思い描くことが大切だと思います。そして、子ども達には、広く社会を自分事として捉え、自らの意思=願いを持って欲しいと願っております。

今年度も残り2か月となりました。進学、進級する子ども達が次のステージで大きく花を咲かせるよう、今の仲間との時間を大切にしたいと努めていきたいと思っております。